

# 人生100年時代

## 健やか

# 脳梗塞予防に最新技術

「心原性脳塞栓症」という病気がある。心臓の中でできた血栓(血の塊)が脳に流れ、脳梗塞を起こす病気だ。脳梗塞全体の2割ほどを占め、発症すると重い後遺症を引き起こし、半数は死亡するとされる。全く前兆がないのが特徴だ。そうした脳梗塞を防ごうと、心臓を動かしたまま、血栓ができる場所を内視鏡やカテーテルで切除・閉鎖する高度・先端的治療が道内の医療機関で行われている。

2022年に保険適用となった「完全内視鏡下心房細動手術 ウルフ・オオツカ法(左心耳切除/肺静脈隔離術)」と、19年に保険適用となった「経皮的左心耳閉鎖術 WATCHMAN(ウォッチマン)」。いずれも札幌心臓血管クリニック(札幌市東区)で行われている。

心原性脳塞栓症は心房細動という不整脈を原因とすることが多い。不整脈の患者は左心房の袋状の場所「左心耳」に大きめの血栓ができやすく、それが脳に飛んで脳梗塞を起こす。高齢化もあり、心房細動の患者は増加傾向にあるという。道内には4万人ほどの患者がいるとみられている。

心房細動による脳梗塞の予防には、ワーファリンなどの抗凝固薬(血液をさらさらにする薬)を服用する必要がある。だが、長期に服用していると脳出血や消化管出血などの出血性合併症を引き起こし、服用できなくなることもある。

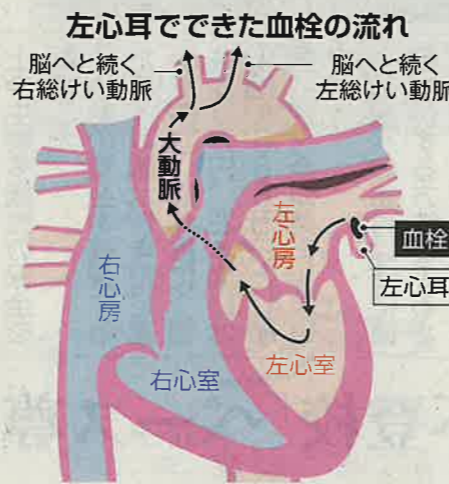
## 心臓動かしたまま処置 体の負担少なく



藤田勉院長

藤田勉院長は「治療の対象は脳梗塞を起こす可能性が高く、抗凝固薬が飲めない人。患者の状態にもよるが、80歳以上の人はウォッチマン、以下の人はウルフ・オオツカ法が選択される」と解説する。

日本心臓血管外科学会専門医で、心臓血管外科部長兼MICSセンター長の濱元拓医師によると、ウルフ



濱元拓医師

## ウルフ・オオツカ法 血栓できる場所を切除 経皮的左心耳閉鎖術 厳しい基準 高齢でも可

濱元医師は「左心耳は切っても心臓に影響はない。切除した部分は短期間で修復(内皮化)されるため、血栓ができることがなくなる」と説明する。

一方、経皮的左心耳閉鎖術は、先端にウォッチマンと呼ばれる特殊な金属製の器具がついたカテーテルを静脈から挿入し、左心房に到達させ、ウォッチマンを膨らませ、左心耳の入り口に留置するものだ。ウォッチマンは徐々に人体組織の膜で覆われ、左心耳は閉鎖される。治療は30分ほど、入院期間は3日。

藤田院長は「内視鏡手術より体の負担が少なく、高齢の人でも受けることができる。治療後、45日で90%、1年後までに99%の人が薬の服用をやめることができる」と話す。

ウォッチマンは治療の適応基準がウルフ・オオツカ法と比べ厳しく、受けられないことがある。ウォッチマン治療を受けると、ウルフ・オオツカ法の手術は受けられない。

ウルフ・オオツカ法は米国のランドール・ウルフ医師と、日本の大塚俊哉医師が考案した。大塚医師に指導を受け、手術を行っている認定医療機関は道内では札幌心臓血管クリニックだけ。ウォッチマン治療も実施医療機関は少ない。(編集委員 荻野貴生)

■手稲溪仁会病院「がん患者と歩む家族の会」(全3回)  
開催日とテーマは①10月9日 がん治療について学ぶ②16日 自分の気持ちを見つめ心身の安定をはかる③23日

情報、知識を獲得しこれからの生活を考える。  
いずれも午後1時半から、手稲溪仁会病院・溪仁会ビル会議室(札幌市手稲区前田1の12)で。参加対象者は、が

ん患者の家族。内容は、医療者からの情報提供と参加者同士の交流。参加無料。都合が良い日だけの参加も可。同病院の受診の有無は問わない。毎回、午後1時20分ごろまで

に同病院D棟1階に集合する。問い合わせは同病院オンコロジーセンターの電話011・685・2976へ。申し込みはQRコードから。

# 「生きる」しくみ

宮瀬規嗣

<865>

医学の進展により、さまざまな原因によってがんが起るということが分かってきました。そこで、今まで明らかになった原因で起こったがんの割合について世界的な規模で調査が行われました。その結果、加齢によって起こったがんが最も多いことが分かりました。これは、ある意味当然かもしれません。高齢になるほどがんになる人の数は確実に増えるからです。

では、がんになる数が2番目に多かった原因は何でしょう。それは肥満なのです。そして、これまで、がんの原因の上位で

## がんと肥満



イラスト せたいし 拓末

もちろん、飲酒も喫煙もがんを起す危険因子であることは間違いないのですが、その数は意外と少ないのです。一方、肥満が2番目だったことは、医学界でも大いに注目されています。

あろうと思われるが、飲酒と喫煙があまり多くないことが分かったのです。それよりウイリスによるがんの方が多くいらいます。

す。なぜなら、世界的に肥満の人の数は増えているからです。これまでも、肥満の人は大腸がん、肝臓がん、子宮がん、乳

## 飲酒、喫煙より危険因子

がん、腎臓がんになりやすいという報告はありましたが、がんの種類にかかわらず肥満は危険因子であるという訳なのです。

近年、日本では大腸がん、肺がん、乳がんが増加傾向にあり、胃がんや肝臓がんは頭打ちの状況です。肥満の傾向を改善しな

教授、札幌医科大学

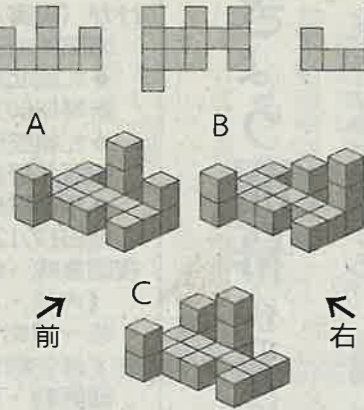
## 脳活新聞

協力・西日本新聞社 過去の出題は <https://noukatsu-shimbun.jp>

### 第414回 立体パズル

上の3方向から見た図と同じ立体はどれ?

前から見た図 上から見た図 右から見た図



答えは、明日の朝刊で!

昨日の答え



脳活新聞 27日別刷り特集